

社養協と社会教育実習支援ネットワーク

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）は、社会教育職員制度の拡充に向けた研究など各種の活動を進めてきました。これまでの成果を活かして、養成校と実習先（人材活用先）をつなぐ社会教育実習を基軸とした養成・研修・採用に役立つネットワークを構築しています。養成校のねらいや学生のニーズ、実習先の要望に応じて、効果的なプログラムをデザインしていきます。

「社会教育実習支援ネットワーク」サイト

<https://sites.google.com/view/shazissyunet>



多様な学びを架橋する社会教育人材養成の高度化と実習先の活性化

社養協「社会教育実習支援ネットワーク」活動

① マッチング・研修

- 養成校－実習先のマッチング・調整支援
- 担当者研修の企画・提供

② モデル提供・実践

- 多様な実習モデルプログラムの提供・実践
- 「マッチングフェスタ（仮称）」等イベントの企画・実施

③ 研究・開発

- 事例研究による実習方法の研究・開発
- データ研究によるアセスメント（評価）の研究開発

本ネットワーク参加のメリット

- 実習先情報提供・マッチング支援
- 社会教育実習データベースの利活用
- 課程担当者・実習先担当者向けプログラムの提供
- 実習モデル・評価方法の開発と提供
- その他、課程運営全般に関する相談

【問合せ・連絡先】

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）
東京学芸大学 総合教育科学系 生涯教育分野 倉持研究室
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
TEL：042-329-7353
E-Mail：shayosei@outlook.com
<http://syayoukyou.web.fc2.com/index.html>

協働による学生の主体的学びの創造

社会教育士の養成と実習

Learning by Doing



社養協 社会教育実習支援ネットワーク

（養成校・大学関係者向けパンフレット）



【社会教育士とは】

国が定める社会教育主事養成課程（2020年4月施行）修了者に、「社会教育主事」資格に加えて、「社会教育士」の称号が与えられることとなりました。地域の教育・福祉・防災・環境・地場産業などの領域で、人々の学びの支援やネットワークづくりを通して人づくりや地域づくりに関わる役割を担います。

【養成課程のねらい】

- 課程運営を通じた大学の社会貢献・地域貢献
- アクティブラーニング・サービスラーニングによる主体的に社会で生きる力を育成
- 社会に開かれた学校づくりを支える基本的知識・能力の獲得
- 多様な領域（まちづくり・医療・福祉・環境・農業・アート・スポーツ・企業 CSR 等）で活かせるコーディネート力の育成

【カリキュラムの内容－実習の必修化】

ファシリテーター・コーディネーターとして学習を支援したり、多様な主体をつなぎ協働をすすめたりする「実践的能力」を養成する「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」や、「社会教育実習」が必修となっています。

実習受け入れ側の声

実習生を受け入れることによって、改めて業務の見直しができ、担当職員の学びになった。

実習受け入れ側の声

事業を大学生の新鮮な視点で力強く展開することができた。

【社会教育実習の例】

実習は社会教育士養成の核となるもので様々な方法、形態、内容で行うことができます。

- 公民館や児童館で来館者対応や事業企画
- 事業運営など一日の業務を5日間連続して体験
- 青少年自然の家主催の小学生を対象とした6泊7日のキャンプ活動に参加
- NPOや企業と連携して毎月実施する異世代交流事業を企画・運営

【実習の方法】

- 施設や活動の参観実習
- 実習先が提供するプログラムへの参加・体験
- 実習先と大学が協働してプログラムを開発するプロジェクト型

【実習先】

- 社会教育・生涯学習施設
- 地域学校協働活動
- 教育委員会事務局、首長部局
- NPO・ボランティア団体
- 企業など

学生の声

理論と実践をつなげてとらえることができ、資格を活用する仕事の具体的なイメージがつかめた。

学生の声

いろいろな人と交流し活動することで自信が付き、コミュニケーション力が向上した。

